

## たね団子づくり

たね団子は、土と肥料を混ぜてよく練った団子に、花の種を練り込んで、それを花壇やプランターに植える形で行う新しい種まきの方法です。団子づくりは、誰でも気軽に参加して、楽しんでもらうことができます。材料や作り方に決まりはないので、自由にアレンジして、オリジナルのたね団子をつくってみましょう！

### ■たね団子のここがすごい！

#### ●花が育ちやすい

- ・雨風で花の種が飛びにくく、傾斜地や荒れた場所にも植えることができます。
- ・団子にいろいろな種類の種をつけて植えるため、花束のような形で花が咲きます。
- ・まとめて花を咲かせるため、草取りなどの手入れがしやすいです。
- ・土に肥料を混ぜることで花の生育を助け、どのような環境でもよく育ちます。

#### ●手軽に楽しく作れる

- ・ケト土等がなくても、身の周りにある柔らかい土で作ることができます。
- ・団子を作る作業は簡単なので、子どもから高齢者まで様々な人が楽しめるイベントになります。
- ・室内で作業できるため、天候に関係なくイベントを開催できます。団子を作る場所と植える場所が異なる場合でも対応できます。



### ■作った後は

- ・作った団子は、種がすぐに発芽する状態になっているので、早めに花壇やプランターに植えましょう。植えるときは、団子を平らにつぶして埋めます。
- ・通常、5日～1週間で芽が出てきて、70日程度で花が咲きます。
- ・花が咲いた後は、花摘みをして、ブーケにするなどの楽しみ方もあります。



### ■材料

- ・ケト土
- ・赤玉土（小）
- ・団子用肥料（マグアンプK）
- ・二価鉄イオン水（メネデル）
- ・珪酸塩白土（粒状）（ミリオン）
- ・珪酸塩白土（粉末）（ハイフレッシュ）
- ・花の種  
（今回使用した種は、ネモフィラ、リナリア、カスミソウ、アグロステンマ、ヤグルマギク、カリフォルニアポピーの6種類）
- ・ジップロック
- ・ビニール手袋

### ■作り方の手順

- ①赤玉土をすりつぶして粉にする。
- ②ケト土と赤玉土の粉を、7：3の割合で混ぜてこねる。  
生地の水分は、二価鉄イオン水や水で調整する。
- ③こねた生地から団子を取り分ける。（1つはキンカンくらいの大きさ）
- ④団子に肥料（団子用肥料、粒状珪酸塩白土）を入れる。
- ⑤団子に花のタネをつける。1つ10～20粒程度。
- ⑥団子に粉末の珪酸塩白土をまぶす。



### ■作り方のポイント

- ・団子の大きさや土・肥料の分量には細かい決まりはありません。自由にアレンジしてみましょう。
- ・団子1個はキンカン大（直径2～3cm）を目安にしています。
- ・花の種をつけすぎると育ちにくいので、注意が必要です。
- ・肥料は必ずしも必要ではないですが、最後に団子にまぶす粉末の珪酸塩白土は、植えるときに目印になります。
- ・市販の赤玉土を使う場合はつぶして細かくしますが、粉状になった廃棄するものをメーカーから譲り受けることができる場合もあります。

## 緑の交流サロン

# ヒント集

## 緑のチャレンジ編

（公財）川崎市公園緑地協会では、川崎市内で活動されている緑の活動団体の皆さんを対象に「緑の交流サロン」を開催しています。それぞれの活動について情報交換や活動につながるアイデアなど団体間を超えて気軽に楽しく交流することを目的としています。

今回は、花壇活動や里山活動をテーマに「NPO 法人 GreenWorks の牧野ふみよさん」と「元横浜市南部公園緑地事務所長で樹木医の岡澤信一さん」をお招きし、専門的なお話、実習やワークショップの指導を行っていただきました。また、活動に対する意見交換や質疑応答なども行い、今後の活動に生かせるアイデアも沢山頂きました。

3回の交流サロンにおける要点をヒント集としてまとめました。日頃の活動の参考に是非お役立てください。



（公財）川崎市公園緑地協会





## 春の花壇デザイン

平面で考えることの多い花壇デザインを、出来上がる風景をイメージして、立体的に考えます。

植物の形や大きさを表すパーツを作って並べ替えることで、誰でも簡単に、花壇のデザインを考えることができます。

みんなで意見を出し合って、素敵な花壇をデザインしてみましょ！

### ■デザインワークショップの良いところ

#### ①自分の頭の中にある花壇のイメージを、簡単に他の人と共有できる

・立体的な花壇の絵があれば、イメージが沸きやすく、みんなで自由に意見を出せます。取り入れる植物や色、配置などいろいろ試行錯誤して、みんなが一番良いと思う案を採用することができます。

#### ②誰でもデザインを考えることができます

・植物を形、大きさ、色などの特徴で捉え、抽象化したパーツに置き換えることで、植物に関する知識がない人でもデザインに意見を出しやすくなります。

### ■デザインワークの手順

- ① 花壇のテーマを決める。
- ② 花壇のテーマカラーを決める。
- ③ 植物を選ぶ。(色も)
- ④ 選んだ植物のパーツに色を塗って切り取る。
- ⑤ みんなでパーツを並べて、花壇のデザインを決める。
- ⑥ パーツを貼る。



### ■デザインのポイント

#### ●植物の形や大きさを捉えよう

・植物は形や大きさに個性があるため、その特徴を捉えます。こんもりする、上に伸びる、横に這うなどの形の特徴は重要です。

(例) ストックは細長い三角形、ノースポールは長方形、ピオラは楕円形など。

#### ●植物の生長した姿を想像しよう

・植物は苗の状態ではなく、生長したときの姿(形、大きさ)を想像して、デザインを考えます。

#### ●見映えの良い植物の配置を考えよう

・全体のバランスや背景、周辺環境との関係、大きなものの後ろに植物が隠れていないかなどを確認します。

### ■植物選びのヒント

#### ●生育環境

・日なたや日陰、湿っている、乾燥しているなど、植栽する場所の環境をよく観察して、環境に合った植物を選びます。

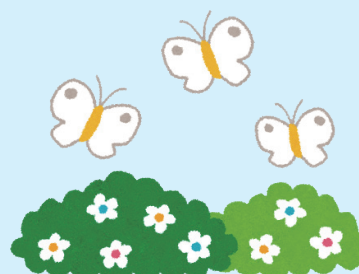
#### ●ライフサイクル

・一・二年草や多年草(宿根草)の区別を知り、花壇が季節に応じてどのように変化するかをイメージしましょう。多品種の植物をバランス良く植えることで、植え替えの手間を減らしたり、費用を抑えたりすることができます。



### ■デザインが決まったら

- ・立体のイメージ図を、平面図に作りかえましょう。
- ・各植物を平面図のどこにどのくらいの面積で植えるのかを決めて、植物の名称と株数を書き込みましょう。
- ・平面図は、予算をつくったり、土や苗の手配をしたり、花壇に苗を植えたりするなど、作業をするときに役立ちます。
- ・次の年の花壇づくりの参考になる、記録としても大切です。



## やさしい樹木診断

公園や樹林地を管理する上で、日頃から樹木の健全度(健康状態)を点検・観察することは重要です。

樹木の状態や病気のサイン、周辺の環境をチェックすると、簡単に樹木の健全度を診断でき、必要な処置を行うことができます。身近な樹木の健康状態を診断してみましょ！

### ■診断のポイント

まず樹木の全体を観察してから、各部分を観察しましょう。

#### ① 樹木の健康状態

枝や葉の量、枝のバランス、枯れ枝、切られた跡、葉の大きさ、木の肌の状態、ひこばえ・胴吹き、ふくらみや空洞の有無など

#### ② 病気を知らせるもの

キノコ、ヤドリギ、コケ、アリの巣、カミキリムシの穴、ツルの絡みつき、アブラムシなど

#### ③ 樹木の周辺の状況

枝や根の伸び方、土の状態、根の切られた跡、人や車の踏み固め、日当たりなど



### ■樹木を健康に保つために

- ・日照条件や土壌の湿度、移植のしやすさなど、樹木ごとの性質を知ることが大切です。自然に生えている樹木を観察すると、樹木の性質を理解しやすくなります。
- ・樹木にとって葉は重要な部分なので、剪定は必要最低限に行いましょう。花木は、花芽を形成する前に剪定を行います。
- ・病気を見つけたら、樹木医などの専門家に診断を依頼し、適切な処理をしてもらいましょう。
- ・病気の伝染を防ぐため、病気の木を剪定したハサミなどは消毒しましょう。